

經典餘師

孝經之部
再刻

全

口 11
1029
49 止

門口 11 1029 1984 卷 49 49

皇國二千五百三十三新年鑄

讃岐溪百年先生著

經典 孝經之部

浪華書肆文金堂藏

經典餘師孝經

凡例附言

○聖人の道とて天下國家を治むるより一己の
身行状を脩むる道なる中より人の上とてハエ
よりゆるせにあらざる古人の詞も胸中おれ
あきて徒に位を争ふことハ宮殿の内は塵器をてあら
ふは異なりとて斯道と難ふ様は多しハ

元来漢字ふて言葉の異なりなるがゆへあり、今經典
餘師二十五卷をいふ、けりてさう、やきうう、む
能く讀法の趣、考ぐ合ふ日ありての雪れど、たゞ、き

○讀法

○もといハ本文は揚名於後世とあり、上段の讀法
は名を後世は揚て、よむべしとあり、そのどく字策
を以て字と撞て跡へかりよむべし、初讀法の文字の

間、は、もといハ、上、の、文、字、は、附、て、よ、む、べ、し、又、二、字、の
訓、終、も、い、ハ、その、字、を、つ、き、て、次、の、字、う、つ、ぶ、る、だ、と、い、ハ
名、を、と、よ、む、う、ち、ハ、字、策、を、以、て、名、の、字、を、つ、き、て、動、ぶ
後、世、と、よ、む、出、と、い、ハ、後、の、字、う、つ、ぶ、し、又、後、世、ふ、と、い、ハ
よ、む、内、ハ、世、の、字、と、撞、て、動、ぶ、う、ち、む、揚、の、め、と、よ、む、出、と
時、揚、の、字、を、つ、ぶ、し、子、細、ハ、上、の、字、れ、よ、う、ち、め、と、い、ハ、
下、の、字、へ、附、て、よ、む、時、ハ、い、づ、も、い、づ、も、その、文、字、を、よ、む

是ゆる事なりとざるがためなり

一字の訓ハ一字の傍はつけおるるをさきども○

於の字矣の字ハ助字とて讀ざるなり依て(矣)

をてて置あり、委をてハ四書の餘師は出

置られバツやくー侍るぬ、かやうにてむる字を

ハ儒師はまゝふよ異なるをありと心得べし

凡例終

讀法

孝經

開宗明誼の章第一

孝經

漢氏譯

開宗明誼章第一

此篇ハ孝道の宗源を開きてその義理を明かに示すものなり是を章の第一とす

仲尼問居曾子侍坐

聖王人なり、問居あり、せられ、御門人の曾子御傍に侍坐して、これより仲尼ハ聖人の御字

子曰、まはく、とよと、はうべし、以下この例

の曾子御傍に侍坐して、これより仲尼ハ聖人の御字、孔子とて、天子尊崇あり、そのひて、文宣王論語餘師、委細に、略し、略し、

子曰、參先王有至德要道以訓天下

民用和睦上下亡怨女知之乎

經典餘師

孝經

二

河内書屋



之を知乎。と
ううよむべし

曾子席を辟て
曰く参不敏

何ぞ以て之を知
ん乎

子曰夫孝ハ徳之
本也教之繇て
生ざる所なく復
坐せし吾女に語ん

身體髮膚受之
父母受取て
毀傷せざるハ孝

聖人をたずねて子とわうとて奉まつる、曾子へ
曰ありけるハ、先代の王至極の御徳を以て人間肝要の道
を天下の万民に訓ふ、それゆへ万民和睦く
ちやうりて上下怨むとてりるの亡しとや、女のとと
承知しこせや、の御意なり、参とハ曾子の実名なり

曾子辟席曰参不敏何以知之乎

曾子うけりて、坐席を辟のき拜礼ありて曰や、
不敏なるわう、なれば何以存ぞとてわう人乎と

子曰夫孝徳之本也教之所繇

生也復坐吾語女 聖人仰せありけるハ、他のと
孝行ハ徳の根本人間第一の道うて、成端の教は出
来となり、今吾の語てらるる、もづ、坐席へ

復てけしむ、
身體髮膚受之父母不敢

之始也

毀傷孝之始也 孝を人より身をとる身とて、
をいふ、え来ある身体ハ髮鬚一寸の膚もく、父母
をう受けることなれば、我身とてくも是れ傷つけ、又ハ
名を毀さふことハ不孝なり、孟子が説く、てく、
なう人も生る始ハ性ハ善なり、年長て心の
置ゆるのありて、心性も悪くなる、今日不孝の
人といへども、若他人より親を辱めるとき、時ハその
怨むをむる心なきものハあり、禽獸までもさう
うろろり、之に倣て心ある人ハ、さう身とてくも父母の
事をあひて、高き陵ハのち、深き淵
ハのぞき、是事ハ孝行の始なり、
於後世以顯父母孝之終也 行はれ、
行の道ハ立おくべし、是第一義なり、
の世も揚て、父母の徳を顯著せたり、ハ、是孝道

立身行道揚名

於後世以顯父母孝之終也

行の道ハ立おくべし、是第一義なり、
の世も揚て、父母の徳を顯著せたり、ハ、是孝道

夫孝ハ親ニ事
ルニ始リ君
事ニ中リ
身ヲ立テ終
ルヲ助ナリ

大雅云ク再
ノ祖ヲ念ト亡
ル其徳ヲ事
修
天子ノ章
第二

の終りを善むと
夫孝始於事親中於事君
終於立身
の始りより主君ニ事ヘ終リハ何とモ
功ヲ立テ身ヲ立テ終リハ何とモ
功ヲ立テ身ヲ立テ終リハ何とモ
功ヲ立テ身ヲ立テ終リハ何とモ

祖聿脩其徳
詩經の大雅とハ篇ノ出テ、
祖ヲ念ハズ者ハ亡シ
祖ヲ念ハズ者ハ亡シ
祖ヲ念ハズ者ハ亡シ

天子章第二
天子ノ御方ハ民ニカ
大切ナル事ナリ
天子ノ御方ハ民ニカ
大切ナル事ナリ
天子ノ御方ハ民ニカ
大切ナル事ナリ

子曰ク親ヲ
愛スル者ハ敢
テ人ヲ惡シ不
親ヲ敬スル者
ハ敢テ人ヲ慢
ズ不
愛敬親ニ事
ルニ盡ス然
テ後徳教百性
ニ加リ四海
ニ刑ス蓋天子
ノ孝ナリ

子曰愛親者不敢惡於人敬親者不
敢慢於人
讀法
讀法
讀法

百姓刑於四海蓋天子之孝也
諸侯卿
大夫士庶人
百姓刑於四海蓋天子之孝也
諸侯卿
大夫士庶人

入來ざるものなり、喪水はつまずいて、
入來ざるものなり、喪水はつまずいて、
入來ざるものなり、喪水はつまずいて、
入來ざるものなり、喪水はつまずいて、

淵の臨む如く
薄氷を履ぐ
如く

卿大夫の章
第四

子曰く先王
之法服に非
ざる敢て服
せざる先王
之法言に非
ざる敢て道
を行はざる
先王の德行
に非ざる敢
て行はざる

あの故に明君は常に仁徳の心をもち、
若や君の徳をうけとるもの、
詩の詞のどよめき、
兢々ハおそろしきなり、深き淵に臨むも、
履ぐぞくぞよ

卿大夫章第四

卿大夫老より大夫ハ
家老なり

子曰先王之法服不敢服
人の衣服

世の礼非義のつらなり、先王法を正し、
者ハ法をぬる服ハ敢て服と
かゝる先王のまへに出る
非先王之法言

不敢道
空海の實語教も出されて古は禍の根ありとあり

非先王之德行不敢行
先王の徳の行は

是故一法に非ざる
行はざる道に非ざる

尊崇なり、非義より、
敢て行はざる、
是故非法

言亡身擇行

不言非道不行口亡擇言身亡擇行
心ある人ハ法をぬる言なく、道なき行をぬる、
世のどよめき、口言身行擇むものハ

言天下亡口過行滿天下亡怨惡

言滿天下亡口過行滿天下亡怨惡
法ある言ハ天下より満て過失なく、道より行状ハ
天下よりくくても悪く怨むと亡く

三者備矣然

三者備矣然後能保其祿位而守其
三者備矣然

宗廟蓋卿大夫之孝也

宗廟蓋卿大夫之孝也
右の言言諸衣服
行状の三者の備る徳

卿大夫の孝也

詩云夙夜匪解
守て位祿保るものなり

詩云夙夜匪解

以事一人
詩の心ハ夙夜道に解せず何ぞ深
忠義を尽し上一人に事奉る

一人之事

士の章第五

子曰資於事父以事母其愛同

父以事君其敬同

故母取其愛而

君取其敬兼之者父也

故以孝事君則

士章第五

子曰資於事父以事母其愛同

父以事君其敬同

故母取其愛而

君取其敬兼之者父也

故以孝事君則

忠

以弟事長則順

忠順不失以事其上然

後能保其爵祿而守其祭祀蓋士之

孝也

詩云夙夜寐忝爾所生

興夜寐忝爾所生

詩云夙夜寐忝爾所生

興夜寐忝爾所生

詩云夙夜寐忝爾所生

興夜寐忝爾所生

詩云夙夜寐忝爾所生

庶人の章第一

子曰マハク天の時トキは因ユ

地之利チノリは就ツ

身を謹ツと用ヨウと節セツとマハク以て父母と養ヤウたりマハク此庶人之孝也

庶人章第一 万の庶人心得べきこの章なり

子曰因天之时 万の民ハ農業を以て第一とする

ついで世をくろくするところなり農業ハ春田耕一夏草をり種つけをたりて秋ハ實のり綱むるところなり冬ハ池ぶ一等等の外來年の用意をばいふべきこと

是を天の時節は因て施すとはいふなり

就地之利 地の利ハ水ハ田ハ稻をうゆ

菜をうゆ等より山ハ木をうゆなど謹身

節用以養父母此庶人之孝也 右のよう

はとめ儉約をいひ財宝の入用を節制し身と謹しめて法度を犯さず上なる人を慢侮

孝平の章

第七

子曰マハク故自天子以下至庶人マハク至マハク孝終始マハク亡マハク而マハク患マハク不及マハク者マハク未マハク之有也マハク助字ホハ両度

三才の章

第八

曾子の曰マハク甚マハク哉マハク孝之大也マハク子曰夫孝天之經也マハク地之誼也マハク民之行也マハク子曰夫孝ハ天之

孝平章第七 孝道ハ平くあり

子曰故自天子以下至於庶人孝亡終始而患不及者未之有也

庶人ハつづつ孝をたふす終始をたふす

三才章第八 天地と人を三才とつゝ其理一致なり

曾子曰甚哉孝之大也 孝道の甚く大

子曰夫孝天之經也地之誼也民之行也

誼也民之行也

子曰夫孝ハ天之

誼也民之行也

經也地之誼也
人之行也

天地之經
而民是之

天之明
地之利
天下之訓

是以其教
肅而不成
而政不嚴

萬物を生ずるは是れ永代不易の道なり
地は萬物を養ふは是れ孝の道なり
人は仁義忠孝を信じて是れ天地の經なり

而民是則之
上下の民は天地の經を則する

則天之明
因地之利
以訓天下

是以其教不肅
而成其政不嚴
而治

先王見教之可以化
民也

以博愛而民莫遺其親

陳之以德
誼而民興行

敬讓而民不爭

道之以禮樂
而民和睦

而治
先王教之以民
之化也

是故先
王博愛を
以て民

其親を遺
其親を遺
之を陳

誼を以て
而民行
之先王

讓を以て
而民不
爭

聖人は天地の如くその徳自然に身を行はせしめて成就せしむるを以て治むるなり

先王は教の可以化する民を見

以て博く愛するが故に民は親を遺さず

陳布する徳と徳を陳布するが故に民は興行する

敬重し讓るが故に民は争ふ事なく

道に導かれ礼樂を以て教はるが故に民は和睦する

孝經

卷之五

七

河内書局

之通比に礼

樂を以て而して

民和睦を

之示を以て好惡

を以て而して民

禁を以て

詩云赫々

師尹民具再

瞻

孝治の章

弟九

子曰昔者

明王之孝を以て

天下を治む

敢て小國之臣と

遺を不而況

公侯伯子男

於て乎

故は萬國之觀

心を得て以て其

先王の事

國を治む者ハ

取て鰥寡を侮

や士民は於て乎

示之以好惡而民知禁

赫赫師尹民具爾瞻

詩云赫々

師尹民具再

瞻

孝治の章

弟九

子曰昔者

明王之孝を以て

天下を治む

敢て小國之臣と

遺を不而況

公侯伯子男

於て乎

故は萬國之觀

心を得て以て其

先王の事

國を治む者ハ

取て鰥寡を侮

や士民は於て乎

國者不敢侮於鰥寡而況於士民乎

國を治む者の諸侯ハ

困窮なるものをよく

察し

詩云

赫々

師尹

民具

再瞻

孝治

弟九

子曰

昔者

明王

之孝

を以

て天

下を

治む

敢て

小國

之臣

と遺

を不

而況

公侯

伯子

男於

故百姓之歡心を以て其先君の事
 家治者家を治る者ハ
 不敢失於臣妾之心を失ふ而不
 況や妻子に於て況や妻子に於て
 乎故人之歡心乎故人之歡心
 心を得て以て其親の事心を得て以て其親の事
 夫然故生則夫然故生則
 八則ハ親を安八則ハ親を安
 人ト祭ハ則ハ人ト祭ハ則ハ
 鬼之を享する鬼之を享する
 是以天下和平是以天下和平
 災害不生禍亂災害不生禍亂

故得百姓之歡心以事其先君百姓の歡喜有るを以て其先君の御先祖
 治家者治家者
 不敢失於臣妾之心而況於妻子乎不敢失於臣妾之心而況於妻子乎
 故得人之歡心以事其親故得人之歡心以事其親
 夫然故生則夫然故生則
 親安之祭則鬼享之親安之祭則鬼享之
 是以天下和平災害不生禍亂是以天下和平災害不生禍亂

乱作ら乱作ら
 故明王之孝故明王之孝
 以て天下を治以て天下を治
 此の如此の如
 詩云く詩云く
 德行有德行有
 四國之四國之
 順順
 聖治の章聖治の章
 第十第十

不作不作
 故明王之以孝治天下也如此故明王之以孝治天下也如此
 明王の政道明王の政道
 詩云有覺德行四國順之詩云有覺德行四國順之
 直の詩の心ハ上よの徳の行るを以て四方の國民隨順歸直の詩の心ハ上よの徳の行るを以て四方の國民隨順歸

曾子曰く曾子曰く
 敢て敢て
 同聖人之徳同聖人之徳
 以て以て
 孝に孝に
 加ふ加ふ
 乎乎
 子曰く子曰く
 天地之天地之
 性人性人
 を貴を貴
 と為と為
 人之行人之行
 なな
 孝孝

曾子曰敢問聖人之徳亡以加於孝乎曾子曰敢問聖人之徳亡以加於孝乎
 子曰天子曰天
 地之性人爲貴人之行莫大於孝地之性人爲貴人之行莫大於孝
 聖人の徳ハ天地陰陽二氣の合して生むるを性とし、その性の中より人より貴きものなり、その人

其因所の者本也

父母生績の章

弟十一

子曰父子之道ハ

天性也
君臣之誼也

父母生績章第十一

父母の生育するハ積々の
若くは積功をうくる

子曰父子之道天性也

父子の道ハ誠ニ
天性自然なり

父ハいつくし、子ハいつくし、
是自然の中心を生じて已べり

君臣之誼

也

君臣の礼ハ公道なり、天地の間あれより重なり

父母生之績

臣の君を敬慕して、父子の父よりつくる

父母生之績

莫大焉君親臨之厚莫重焉

父母の子
を生育

の恩の慈愛より、子ハいつくし、又上は立つる君主親愛

孝優劣の章
弟十二

子曰其親を愛セ

不して他人を愛

と謂其親を敬

悌礼と謂

以て訓をバ則ち

皆凶徳は在志

善は宅不して

皆凶徳は在志

孝優劣章第十二

孝は於て優劣

子曰不愛其親而愛他人者謂之悖

徳不敬其親而敬他人者謂之悖禮

他人の自然の性質ハ本づき因がゆとぞ

以訓則昏民

亡則

不宅於善而皆在於凶徳雖得志君

良て而く之と

以臨其民是以其民畏而

子其儀武不

善心なるを徳
人とりよ、徳

子曰孝子之親

孝子

其樂と致し

つゝのハ我身を敬恭の場ニ居てとて柔一なり、
こゝく父母ノ事ハ衣服飲食を以て養ふものを

君を要する者

要君者上

至重と

聖人を非ざる者

非聖

法を亡き

人者亡法

孝を非ざる者

非孝者亡親

此大亂之道也

此大亂

廣要道の章

廣要道章第十五

子曰民は親愛

子曰教民親愛莫善於孝

を教ゆるハ孝

教民禮順

ハ弟より善ハ

莫善於弟

莫

義を重んじて順たる道は

風を移し俗を

移風易俗莫善於

易ハ樂より

樂

善ハ莫

樂府なり音曲なるがゆへ人々面白くたしめて

上を安し民を

安上治民莫善於禮

治ハ礼より善

禮者敬而已矣

故其父を敬

故敬其父則

敬其兄を

子說敬其兄則弟說敬其君則臣說

弟說其君

子說敬其兄則弟說敬其君則臣說

を敬すれば則ち

その故は礼法のあるは誠にもあつくよく

臣説しやうふふ一人を敬けいして而しかして千萬人説しやう

敬けいする所の者寡くわくくて而しかして説しやうふ者衆しゆ

此之を要道ようどうと謂いふ

廣至徳の章

第十六

子曰君子之教しやう孝を以てもつて家けに至いたりて而しかして日小之と見み

の心説しやうふふ一人を敬けいするやまへばその孝こよろこぶその君きんを敬けいするやまへばその臣しんよろこぶことぞ

敬けい一人而千萬人説しやうふふ一人を敬けいするやまへば千萬人説しやうふふ

所敬者寡而説者衆しやう敬けいする所の者が寡くわくくて而しかして説しやうふ者衆しゆ

此之謂要道也しやう此之謂要道也しやう此之謂要道也しやう

意なり礼ハ人の要道なり

廣至徳章第十六

子曰君子之教以孝也非家至而日

見之也しやう君子孝を以て教をしやう孝を以て教をしやう孝を以て教をしやう

教以孝所しやう教以孝所しやう教以孝所しやう教以孝所しやう

以敬天下之為人父者也

天下の人々を敬けいする者人を敬けいする者人を敬けいする者人を敬けいする者

以敬天下之為人兄者也しやう弟順の教を

教以臣所以敬天下之為人

君者也しやう臣の道を立たてて天下の人

悌君子民之父母しやうかくのまゝにありて君子を

非至しやう徳其孰能訓民如此其大者乎しやう徳を

徳其孰能訓民如此其大者乎しやう徳を

以て民を訓しやうふふ下も上も徳しやう徳を

小非也

教しやう孝を以て

孝を以て

孝を以て

孝を以て

孝を以て

孝を以て

孝を以て

孝を以て

至德非... 其孰能民之訓

應感の章

第十七

子曰昔者明王... 天地明察鬼

ある人... 思ひもせむ

應感章第十七

誠の至ハ天地神明の感應あり

子曰昔者明王事父孝故事天明事

母孝故事地察

天ハ父ナリ地ハ母ナリ昔者

天地之事

道をつく

長幼順故上

下治

先王弟順の道を立ふハ年長なるハ之を

天地明察鬼

神章矣

神章矣

天地之事... 故雖天子必有

禍災... 故雖天子必有

尊也言有父也必有先也言有兄也

必有長也

天子の御身ハ尊崇トハふナリト

宗廟致敬不忘親也脩身慎行恐辱

先也

祖宗廟堂の祭ハ誠を尽ス敬恭と致ス

致敬鬼神章矣

在宗廟の祭礼ハ誠のつく

孝弟之至通於神明光於

四海亡所不暨

孝弟の道を尽スハ神明に通

鬼神章矣

孝弟之至神明

曾子の曰く夫慈愛龔敬安親揚名を安んずる名を揚る若し参命を聞て敢て問子父之命に従ふ孝と謂可けん乎
子曰参は何の言ぞ與は何の言ぞ與言之通不邪
昔者天子に争臣七人有亡道たるを雖も天下を失は

曾子曰若夫慈愛龔敬安親揚名參聞命矣敢問子從父之命可謂孝乎
曾子かきめて御問のうらやうは右慈愛の道龔敬の礼がらひひ親を安堵たさうめ名を後の世よりとるるを種々の御命に己よりけりぬ敢て御問より上るは子よりて父よりとるよりとるより孝と云ふ
子曰參は何言與は何言與言之不通邪
聖人御答の中よりハ参その方の叶かりは何言をいつくあるぞ、何ゆゑ理を推致めさせ言の通ぜざるや
昔者天子有争臣七人雖亡道不失天下
昔者天子を諫言争ふの官七人あり、三大臣と補師の臣四人あり、之より天子の非を諫め過失を補師とを司るなり、天子たう道を行つて亡

諸侯有争臣五人有亡道たるを雖も其國を失は
大夫有争臣三人有亡道たるを雖も其家を失は
士有争友有令名則身不離於父有争子有令名則身不陷於

人雖亡道不失其國
諸侯の家は諫争の臣五人あり、亡道たるを雖も其國を失は
大夫有争臣三人雖亡道不失其家
大夫の家は諫争の臣三人あり、亡道たるを雖も其家を失は
士有争友則身不離於令名
今日諸士の交接より信を守善を責くの人ありて過失亡道あるは諫争とむる所はまことと惡く名なく令名を父有争子則身不陷於不誼
父子の道ハ孝順を以て事とせしむるは、顔色を見て幾く諫む

不此聖人之正也

三年を過不
ハ民終有を
示也

滅性此聖人之正也

父母の哀戚をよき
置て身瘠体傷

三年示民有終也

父母の哀戚子ら者
て誰甲乙あるや

置る春中何もの限あるや

聖人その宜と
を制して三年ふか

三年ふか父母の懐を免るや

論語餘師は出るや
○天朝十二月

小御制あり、是今の世は

民の産業に害な
るを思ひて

為之棺槨衣衾以舉之

礼を制して
棺

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

不此聖人之正也

三年を過不
ハ民終有を
示也

滅性此聖人之正也

父母の哀戚をよき
置て身瘠体傷

三年示民有終也

父母の哀戚子ら者
て誰甲乙あるや

置る春中何もの限あるや

聖人その宜と
を制して三年ふか

三年ふか父母の懐を免るや

論語餘師は出るや
○天朝十二月

小御制あり、是今の世は

民の産業に害な
るを思ひて

為之棺槨衣衾以舉之

礼を制して
棺

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

其簠簋而哀戚之

簠簋祭の器
を奉

而哭之

而哭之

生民之本盡
生死之誼備
孝子之事終
矣助字なり
孝經讀法終

哀戚を以て終るべきことなり
生民之本盡矣
此世に生ずるもの道を
死生之誼備矣
孝子之事終矣
右の如く孝子之事終るは誠し人たるもの此書を
よむ此事を知らん一日も立ちたうするものなり

溪代録謹譯

孝經

各國書籍處

大阪心齋橋通本町東段

書籍會社

發兌

下ノ関西南部町

書籍會社

書賈

大阪心齋橋通唐物町

森本太助

